

認知症は初期の頃にもの忘れだけが目立ち、日常生活は営める時期があります。



まずは本人、周りの方の「気付き」から始まります。
このような状況はありませんか？

「歳だからしょうがない」「もう〇歳だから、そんなこともある」
みなさん「あれ、おかしいな」と思いながら、やり過ごしてしまいます。

いよいよ地域生活が立ち行かなくなり、入院を前提に病院の門をくぐられる
ご家族にお伺いすると、「2～3年前から、あれ？と思うことがありました」
というお言葉をよくお聞きします。

年相応のもの忘れかもしれない、何もないならそれでいい、
今の生活を少しでも長く維持するために、
早めの専門医受診をお勧めします。

本人 特徴 日常生活は基本的にできる。以前できていたが最近
できなくなったと自覚がある。

- 昨日の出来事を思い出せない
- 昨日見たテレビ番組の内容が思い出せない
- あらかじめ決まっていた予定を忘れる
- 新しい予定が覚えられない
- 財布や印鑑、通帳など置いた場所を忘れる

周りの人 特徴 できるとき、できないときがあるから判断に迷う。

- 同じことを何度も言う
- 同じ質問を何回もする
- 今会った人のことをすぐ忘れる
- ときどき約束しても忘れていく
- 最近物忘れをするようになったと本人が言う
- ときどき初めてではない場所で迷子になる
- 簡単な会話は可能であるが、つじつまが合わないことがある



もの忘れ外来のご案内

受診前

事前予約が必要です。まずはお電話ください

- ☆ 受付時間 ・月～金曜日(祝祭日、年末年始、お盆を除く) 9:00～17:00
- ☆ 電話番号 ・099-238-0075
- ☆ 診察日 ・土曜日 午前(初診)

受診当日

予約された時間に病院にお越しください。
(所要時間2時間程度)

☆ 受付

- ・健康保険証 または 高齢受給者証
- ・(かかりつけ医がいる場合)紹介状
- ・(お持ちの方)介護保険証
- ・(お持ちの方)お薬手帳
- ・(ある場合)他院で受けた検査結果など

☆ 問診

相談員がご本人及びご家族から生活の状況をお伺いします。

☆ 検査

ご本人に頭部CTや採血、頸部超音波検査、心理検査など受けていただきます。

☆ 診察

老年期専門医が診察いたします。現在の状態の説明や、今後の治療や介護サービスについて総合的にお話しさせていただきます。

受診後

- ① 医療が必要 ⇒ 診断結果に応じて外来通院または「かかりつけ医」での治療。
- ② 介護サービスが必要 ⇒ 必要に応じて保健・福祉介護施設などご紹介いたします。



何でもご相談ください。

住所 鹿児島市犬迫町7783番地1

電話 099-238-0075

物忘れ外来 担当医師 プロフィール



氏名 : 内田 将博

現職 : 医療法人共助会 三州病院医師(精神科)

経歴 : 平成7年3月 鹿児島大学医学部 卒業
鹿児島県立始良病院等で勤務。

平成20年4月～ 現職

精神科医としての臨床歴 : 19年

学会認定医
専門医等の資格

日本医師会認定産業医
精神保健指定医
日本精神神経学会専門医
日本老年精神医学会専門医
労働衛生コンサルタント(保健衛生)

